

月報

岡崎の教育



9 月 号

昭和61年9月1日

発行 / 編集

岡崎市教育委員会

闘病生活を綴った

木藤さんの日記録音を流す。

「生きたいのです、お母さん……」

私の中の、……キラッと光るものを
見つけてください……」。

たんたんと流れる声。

あちこちから

ざわざわと子供の声。

「へんな、しゃべり方」

「先生、脊髄性脳軟化性ってなに」

「黙って聞いて……」。

たんたんと流れる声。

子供たちの声もなくなった。

はしゃぎ者の伊藤君も

神妙な顔。

テープを止める。

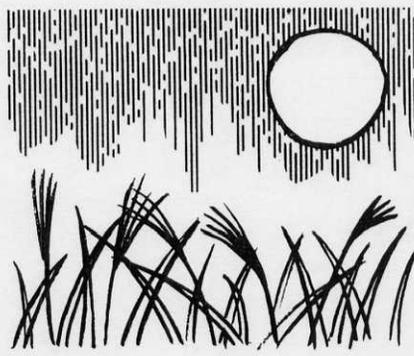
「先生、もつと聞かせて……」。

〈感動—リットルの涙—〉



(大きく育った — 矢南小)

今、医療の現場に身をおく者にとつては、冷たい風が吹きすさんでおります。総医療費が16兆円に達して国の財政を大きく圧迫して来たために、これを何とかして抑制しようと、国の医療政策があらゆる面でいよいよ厳しくなつて来たからです。医療費が高騰した理由はいろいろあるでしょうが、社会の高齢化が急速に進んで、疾病構造も変り、死亡率は下がった有病率は上り、成人病をもつた人が



増えたということ（9.8%の高齢者に35%の医療費が費やされている）と、関連諸科学の成果の急速な導入に伴う医学技術の目覚ましい進歩によって医療機器が高額化したこと、また人々の健康に対する意識が高まって医療に対するニーズが著しく増大し且つ多様化高度化していること、などによるものでしょう。

日本人の平均寿命は飛躍的に伸び、今や男は75才、女は80才と世界一に達した

ことを考えれば、年16兆円（国民一人当たり13万3千円）も高くない、と考えることもできません。私どもの病院に救命救急センターができて四年余りになりましたが、立派な医療機器が揃い、スタッフも充実して、みんな昼夜を分かたずがんばつてくれてお蔭で、以前にはとても助からなかつた患者さんが、次々とよくなつていかれるのを毎日見ていると、やつぱり、お金をかけ人手をかけなくつ

— 教育随想 —

『手づくりの医療』を

小 田 博

ては………と思われられます。

しかし、医療は「手づくり」でなくてはなりません。医療の中心は、一人一人の患者さんにとって画一的なものであつてよい訳は決まっています。つけられた病名は同じであっても、患者さん一人一人がみんな違う顔と姿をもつてみえるように、それぞれ別の心と魂をもつてみえます。ただ体の故障だけに目を奪われ

て、機械的に診断し、薬や注射を投与し手術をするということでは、最良の診療は出来つこありません。その人が今何を一番望んでいるか、その人にとって今何が一番大切で重要であるかを、正確に洞察し把握した上で、お互いに心の通い合った診療が行われなければ、効果は全く期待出来ません。「最善の医療は、強い信頼と深い愛情なくしては、成り立たない」と古人がいいましたが、まことにその通りです。医学は自然科学であり、その方向で発展して来ましたが、医学を人間社会へ適用していく「医療」という分野は、科学というより技術・技能ともいふべきものでありましよう。正に、人間と人間の関係を扱う人間学の問題といつてもよいでしょう。

医療に携わるスタッフとしては、医師も看護婦も、医学の勉強に加えて、不断に自らの教養を高め、人間性を磨かなければなりません。医療の現場に山のように機械や器具が入り込み、その中に患者さんが埋もれてしまつて、「人間性喪失の医療」、「冷めたい医療」などといわれかねない今こそ、重裝備の大病院で仕事をやる私どもは、一層の自戒をし、一層の研鑽を積んで、「手づくりの医療」を心がけねばならない時である、と思つております。

このように医療について述べましたこと、教育というお仕事にも或いは当てはまるころがあるのではないのでしょうか。

（市立岡崎病院長）



教師も作品の製作を

図工・美術科指導員

長谷川晴彦

〇校、四年生が大きな模造紙に友達を等身大にかく授業を参観した。

紙の上にモデルの子が寝そべる。教師がその子の体の輪郭線に沿つて鉛筆を走らせる。子供たちは身じろぎもせず、見入っている。鉛筆の線がきが終わる。モデルはそのままの姿勢で横に移動する。次に、鉛筆の線上を筆で線がきしていく。モデルの輪郭が浮かび上がった。先生と一緒に子供たちも肩で大きく息をした。これだけ子供を引き付けて見させることができれば、授業は成功である。その後の子供たちは予想どおり、意欲的に製作をしていった。教師も自信のある態度で個別指導をされていた。

この授業のよく考えられた点は、等身大にかく。紙の上に寝させる。用紙は長さや自由でできるロール状の模造紙を探しあてたことである。また、教師がかく練習をしたことにより、何を教え、何を見付けさせるのかが見えてくる。これが



袋物づくり

加藤 ちか氏

東岡崎から南東へ名鉄本線に沿って開けた大西町の静かな住宅街の一角に袋物作りに情熱を傾けておられる加藤ちかさんをお訪ねした。

「作った物は、ほとんど人手に渡り手元にはありませんが、今あるのだけ見ていただこうと思っ出ておいたんです。」
 といって見せてくださった作品は、ボストンバッグ、ポシェット、ショルダーバッグ、セカンドバッグ等、形や用途は多様だがいずれも、店頭で見かける既製品にはない材料やデザインのものばかりで一つ一つ心を込めて作られた手作りの味

がにじみ出ている。

「この袋の材料は、お酒をしばる時に使う酒袋です。縦縞に使ってあるのは、昔からの手織り木綿です。丈夫で形が決まっらないので思っったより沢山入り重宝なんです。それから、このセカンドバッグの中心のデザインは、銅板に薬品を塗り腐蝕させてみたんです。」

自らデザインし、型紙を作り、布を切り、縫い上げた作品をめぐるように見っめながら話を続けられる加藤さんに、袋物作りを始められたきっかけを尋ねた。

「私、二十二年間勤めた市職の仕事を退職しましてから、何か自分を生かせるものをと考えて、この道に入っただんです。元洋裁をやっていた事もありますし、六十才から始めて十年になります。」
 岡崎中日文化センターの袋物教室で手ほどきを受け、その後も修業を積み、師範の資格をとられたとのことである。現在もなお「千恵創作袋物工芸の会」に所属し、岡崎と名古屋で月に一回ずつ会合を持ち、自分で考えた作品の批評をし合っつて研さんに努めておられる。

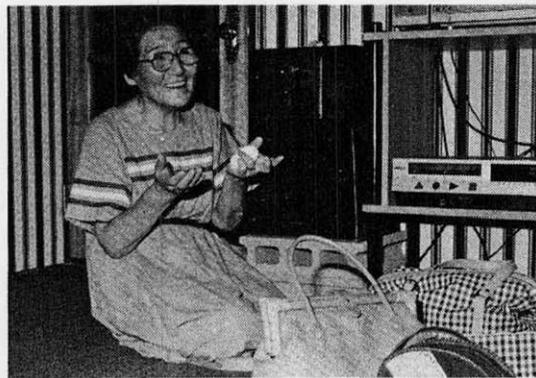
創作された作品は、どのように活用されているのかをお聞きした。

「今、手がけている作品は、名古屋で開かれる展示会に出品するための物です。一週間展示した後、即売をします。値段は、ほとんど材料費だけです。岡崎でも、年四回程展示会をしますが、余り売れません。」
 製作しかかった三十センチ四方程の藍

染めの布をひざの上に広げながら、地元の人達に十分理解されるに至っっていない現状を残念そうに話された。加藤さんが今までに作られた作品は、およそ六百個あり、そのほとんどは知人に頼まれて製作したものだそうである。

「見た目の美しさよりも使い易い物と心がけています。皆さんが喜んで使ったださるのが一番うれいすね。」
 七十才を迎えられた加藤さんは、二十才代で夫を戦争で亡くし、三人のお子さんを立派に育て上げ、なお創作活動にいそしんでおられる。常に志向するものを持つ事が年令を少しも感じさせないゆえんであろうか。

(生年月日 大正五年六月二日)
 (住所 大西町字湊田七の五)



図工の教材研究である。
 子供に製作させるのだから、教師がまず、製作してみなければならぬ。その時点から教材研究が始まると考えたい。

K子さんの欠席が語るもの

保健指導員

奈倉久美香

「A先生、K子さんが三日欠席しているけれど、どんな様子ですか。」、「おなか痛くて、気持ちが悪いといっって、今朝、本人から電話があっただけど。」

K子さんの家は、両親とも聾啞者で、電話で話ができるのは、本人しかいなかった。丁度その頃、夏かぜの欠席者めだちはじめていて、K子さんの電話に不自然さは感じなかった。その後、二日たっっても同じ理由で欠席していた。友達に聞いても同じような答えて、詳しい様子がわからなかった。嫌な予感がある。

さっそく、担任の先生に家庭訪問してもらったところ、予感的中していた。友達とのちよっとしたトラブルが原因でぐずぐずするうちに、学校へ行きづらくなっただらしい。

登校拒否の背後には、様々な原因の積み重ねが考えられる。発症は、ささいな事柄が引き金となるけれど、それ以前にそれとなくサインは発せられている。サインを早期発見し、早期の対応こそ、大切な鍵となる。毎朝の健康観察の場は、絶好の機会とも言える。体を通して、心の健康をも見抜く観察眼が望まれる。



56

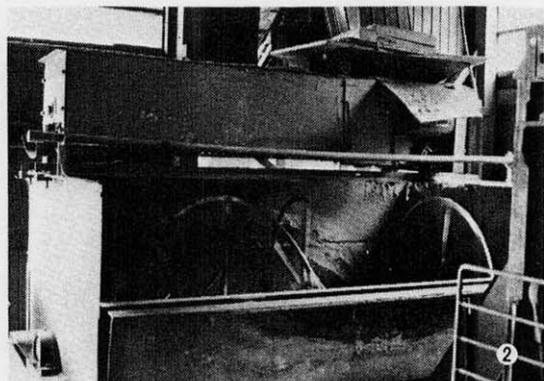
「ヤナギマツタケ」菌床栽培

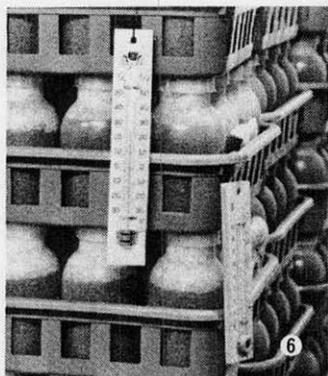
昭和六十年年度の現適（林業技術現地適応化促進事業）の委託を受けて岡崎なめこしめじ組合が栽培をはじめた「ヤナギマツタケ」とは、どんなキノコなのだろうか。

今回、組合長の大山銆夫氏、秦梨の畔柳好氏の協力を得て、「ヤナギマツタケ」の栽培の様子を取材したが、全行程を見られる畔柳氏の栽培現場をもとにして写真で紹介する。

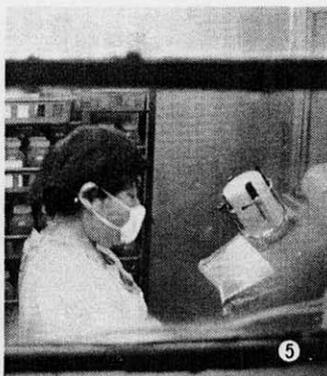
岡崎は夏出しナメコの菌床栽培も全国にさががけて取り組んだ実績があり、その技術や設備を生かして「ヤナギマツタケ」の空調栽培をはじめたと聞く。

「ヤナギマツタケ」は分類では担子菌類マツタケ目オキナタケ科フミズケタケ属に属し、天然では広葉樹の枯幹や生木





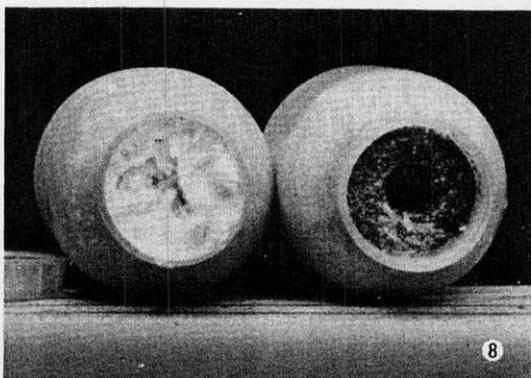
6



5



4



8



7



9



10

の腐朽部に叢生するが、姿は、写真にみられるようにシメジに似ており、マツタケとは、形もかおりもあまり似ていない。しかし歯ざわりがよく、植菌から発生までの栽培期間が一月半と短かく高温時

の栽培もしやすいことから、今後が期待できるキノコといわれている。まだ知名度も低く、市民権を得ていない未知のものにとり組む組合の方々の熱気を感じた取材であった。

① 菌床となるオガクズ（広葉樹のものが多いとか）

⑥ 培養。二十八度Cに保たれた部屋で約一か月間培養される。

② かくはん機。オガクズ、米ぬか、フスマと水をかくはんするのも機械化されている。

⑦ 菌かき。びん全体に菌がいきわたると表面の菌をかきとる。

③ 菌床のびん詰めも十六本ずつ一度に機械できまった分量だけ入れられる。

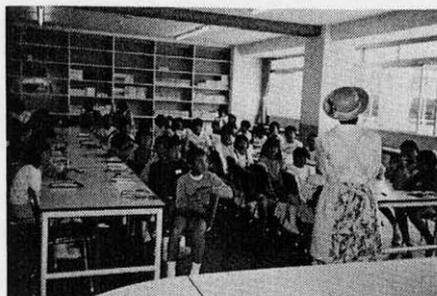
⑧ 左が「菌かき」前、右が「菌かき」後。かならずしも「菌かき」が必要とは、今の段階ではいえないとの話。

④ びんに詰められた菌床は、ここで殺菌され雑菌は完全に除去される。

⑨ 芽出し。表面の菌糸をとり、水をやると約十日で芽を出す。左はしが十日後右はしが十六日後。

⑤ 無菌室で菌の接種がおこなわれる。これは取材班も入室できなかつた。

⑩ 菌床をビニール袋に入れて菌糸を育てている大山銈夫氏。



日君とコシヒカリ

小豆坂小 細井由美子

学期末保護者会のできごと。

「えっ、コシヒカリ。」

「ハハハ、また、なんで。」

日君は父の日にコシヒカリをプレゼントしたそうだ。プレゼントをしておきながら、

「お父さんは、コシヒカリを食べすぎる。」

と文句を言い、お父さんは、「もう、コシヒカリなんか食べんぞ。」

と笑いながら言い返す。

そんな話題に、日君のお母さんと大笑いしてしまった。そして、今まで気づけなかった日君のやさしさを知らされ、胸が熱

くなった。

始業式の夜、N君のお母さんから電話があった。四年生のおわり頃から日君にいじめられているということである。近所の方の話でも、他の子も日君にいじめられているとのことである。一学期始めからこれでは先が思いやられる……。

スポーツもできて、はきはきした態度の日君に周りの子が圧倒されてしまうのか、とも考えたが、よく見ていると日君もなかなかのつわものである。自分より体の大きい子の肩にでも、平気で腕をかけるし、係、掃除の仕事も自分で決め、友達に指し図する。「早く並べ」と、横柄な態度で整列を促す。

そんな態度に、

「日君、えぼつとるもんな。」

と、非難の声が聞かれるようになり、しだいに孤立していくようになった。五月の写生会の日「先生、日君とN君がけんかしてる。」

との声に、急いでかけつけたところ、N君のせいせいした顔と日君のくちびるをかんだ顔が眼に入った。とうとう来るべき時が来てしまった。

学級内での立場が代わってしまつて、日君の態度はかたくな

になつてきた。でも、そんなこと

に負けまいとするかのように授業では無言で挙手をする。そんな態度にたづねられて、教師もつい日君に指名をした。

社会の「米づくりをする農家」を学習するうちに、品種改良されたコシヒカリは、値段は高い

日君は、その学習を生かし父の日のプレゼントに選んだのだ。



班競争

竜南中 市川 充

「美川中出身の〇〇です。生年月日は……。」

「私は福岡中から来た〇〇です。趣味は……。」

「ぼくは〇〇で、南中です。部活は……。」

と、四月開校したばかりの新しい学校で、新しい生活が始まっ

た。私にとつても、そして、もちろん生徒にとつても今までとはずいぶん違ったスタートであった。また、学級の雰囲気はどこかよそよそしく、放課など同じ制服同志で固まるなど、寄り合い所帯的な感じであった。

修学旅行を契機に少しずつではあるが、連う出身校同志のグループができ、当初のよそよそしさはなくなつてきた。しかし「互いに助け合う」ような所ま

ではいっていなかった。そこで、班競争を実施することにした。

「えっ、班競争、うちの班にはすぐ叱られるAがおるのであかんわ。」

と、行動がみんなより遅れがちなA君のいる班から声があがった。遅刻や忘れ物など悪い事は減点にするが、良い行いをしたときは、プラス点を与えるという形で実施に移した。

やっぱりA君のいる班の減点が一番多かった。しかし、一週間の集計の前日まではマイナスポイントであったものが、プラス点になつていたのである。

「〇班はすごいなあ。どうやっただい。」

「いくらAを叱つてもだめだから、学校中のトイレのスリッ

パを放課毎に整頓したり、昇降口に行つて靴をそろえたりして、点数をかせいできたんです。」

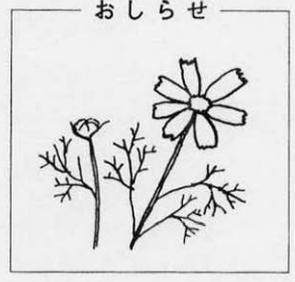
「Aに勉強を教えたり、教科書をかばんに入れたり、助けてあげてプラス点にしました。」とのことであつた。

生徒たちは、私のねらつていた以上の反応を示してくれた。それ以後、授業においても班学習を多く取り入れるようになった。「ねえ、これ、いったいどう解くの。」

「これはね……。」学級のあちこちで教え合う姿が見られ、雰囲気はずいぶん変わった。

しかし、まだ一学期、ほんの一步である。勝負はこれから。





おしらせ

特選知事賞に広幡小学校(学校環境緑化)

生平小学校も知事賞獲得

去る八月二十一日、昭和六一年度愛知県学校環境緑化コンクールの入賞校が決まった。

その結果、「ぼくも、わたしも、緑は仲よし」を合言葉に全校で緑化活動を続けている広幡小学校が、見事に特選・知事賞を獲得。全国学校環境緑化コンクール県代表となった。

(県学校緑化コンクール入賞校)

▽特選・知事賞 広幡小学校

▽入選・知事賞 大門小学校

▽入選・県教委賞 緑丘小学校

▽入選・中日新聞社賞 梅園小学校

八月十九日、愛知県勤労会館では、第十六回県鳥獣保護実績

【寄贈刊行物・資料等】

◆おかげの英語

◆孔版印刷 現職教育英語部

◆私たちの読書 教務主任会

◆孔版印刷

◆かたつむりの詩 野村柁文

◆変形B6 一二七ページ

◆岡崎市復刻版

一三七ページ 岡崎市

◆自ら学ぶ術を身につける学習指導の研究—社会科学・理科

学習における視聴覚教材の活用—

◆英語部報告本 藤川小

◆孔版印刷 現職教育英語部

(優勝者)

▽陸上競技男子走り高跳び

森 泰雄 (美川中)

▽水泳競技男子二百米平泳

高木 清規 (福岡中)

▽水泳競技男子四百米リレー

矢作北中学校チーム

(準優勝者)

▽軟式野球 矢作北中学校

▽陸上競技団体男子 美川中

▽水泳競技団体男子 矢北中

▽陸上競技男子

・二百米 成瀬 徹 (南中)

・千五百米 寺田裕一 (竜海中)

▽水泳競技男子

・二百米平 渡辺 修 (葵中)

・四百米自 根幹久 (矢北中)

・四百メR 矢作北中学校

第十四回中学校生徒市議会

八月九日、岡崎市議会議場で

は、「二十一世紀の岡崎をめざして」のテーマで、岡崎市中学

校生徒市議会が開かれた。

愛知県中学校総合体育大会

第39回岡崎市中学校市長杯総合体育大会兼西三河中学校選手権大会岡崎・額田支所予選会結果

種目	性	優勝	2位	3位
軟式野球	男	矢北中	甲山中	葵中・福岡中
ソフトボール	男	幸田中	六ッ美中	城北中
ハンドボール	女	六ッ美中	葵中	美川中・城北中
	男	新香山中	六ッ美中	葵中・美川中
軟式庭球	女	幸田中	城北中	東海中・矢北中
	男	幸田中	幸南中	東海中・額田中
卓球	男	南中	東海中	額田中・常盤中
	女	矢北中	葵中	東海中・竜海中
バレーボール	女	竜海中	幸田中	矢北中・矢作中
	男	矢北中	城北中	竜海中・矢作中
バスケットボール	女	葵中	竜南中	美川中・幸田中
	男	岩津中	六ッ美中	福岡中・矢作中
サッカー	男	岩津中	六ッ美中	矢北中・額田中
剣道	女	額田中	六ッ美中	矢作中・幸田中
柔道	男	竜海中	美川中	竜南中
体操競技	男	竜海中	葵中	葵中
	女	竜海中	六ッ美中	美川中
新体操	男	東海中	竜海中	六ッ美中
	女	六ッ美中	南中	美川中
陸上競技	男	美川中	竜海中	東海中
	女	甲山中	美川中	竜南中
水泳競技	男	矢北中	矢作中	福岡中
	女	矢作中	竜海中	甲山中
弓道	男	幸田中A	幸田中B	幸南中A
	女	額田中A	幸田中A	額田中B

市長杯総合成績

	優勝	準優勝	3位	4位	5位	6位
男子総合	矢作北中	六ッ美中	竜海中	東海中	葵中	甲山中
女子総合	竜海中	六ッ美中	矢作中	美川中	矢作北中	南中
男女総合	竜海中	六ッ美中	矢作北中	矢作中	美川中	甲山中

昭和61年度岡崎市小学校球技大会成績
並びに水泳競技大会成績

種目	性	優勝	2位	3位
ソフトボール	男	羽根小	山中小	男川小・根石小
	女	山中小	美合小	羽根小・常南小
バレーボール	男	山中小	矢東小	細川小・竜美丘小
	女	竜美丘小	岩津小	本宿小・大樹寺小
バスケットボール	男	連尺小	大樹寺小	井田小・細川小
	女	緑丘小	梅園小	羽根小・上地小
サッカー	男	上地小	大樹寺小	梅園小・常盤小
	女	上地小	大樹寺小	梅園小・常盤小
水泳競技	男	矢南小	附属小	矢北小
	女	附属小	大樹寺小	常盤小



大平町 内田松夫氏蔵

郷土読本 「おかざき」初版本

小学校三年社会科の郷土読本「おかざき」の前身「私たちの岡崎」小学校編初版本が出されたのは、昭和二十七年のことである。

終戦の混乱からやっと立ち直り、新学制がしかれて間もない頃、一五〇ページにわたる冊子を完成させた当時の現職教育委員会の熱気が伝わってくる。

他郡市がまだ郷土読本を手がけていなかった時代だったので岡崎のこの冊子は、他の郷土読本の道しるべとなった。

小学校編と同時に中学校編も

作られ「岡崎の姿」中学校編として出されている。

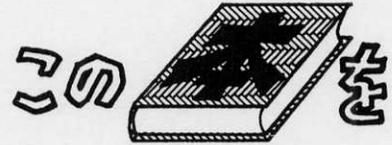
監修は、当時の愛知学芸大学助教授栗原光政氏があたり、編集委員には、小学校編：岩月栄治氏、山本忠男氏、現教育長横井滋氏、中学校編：浅井善一氏、糟谷正孝氏等錚々たるメンバーの名が見える。

三年後に出された改訂版「新しい岡崎」小学校編では、教育に関するページが三ページであるのに対し、初版本は二十ページを使い教育について詳述するなど特色ある編集がみられる。

●カ
ツ
ト

美
合
小

宇
佐
美
里
帆



※ 今日 は 明日 の 昨日	藤本義一
朝日新聞社	¥1000
※ 閑話一滴	水上 勉
PHP	¥1200
※ 鳥の物語	中 勘助
岩波文庫	¥ 500
※ 1リットルの涙	木藤亜也
エフエー出版	¥ 980

※ 愛欠症候群 久徳重盛
海越出版社 ¥ 980

文明国日本の育児崩壊は、世界でもまだ原因の分かっていない謎である。

親子の悲哀を世の親たちに警告して、大ベストセラーとなった「母原病」の著者が、この先進国型の社会や学校や家庭の崩壊について、その病理を人間形成医学によって解明し、人間とはなにかを追求している。

愛の欠けた現代に、いや、間違った愛を子に押しつける親に、あなたの愛は悪魔になっていないか！と警鐘を鳴らす。

岡崎の風土が育てあげた、ふくよかな味と香り。清浄栽培による岡崎特産「やなぎまつたけ」を知る人はまだ少ない。生産を始めて一年にも満たないが、どびん蒸し、卵とじ、炊きこみごはんなど料理の仕方は多いそうだ。

バターでいため、塩と胡椒で味つけして食べたらうまかった。

茂みの中に紅紫色の筒状の花を見つけた。所は鶴栗町の山中、古老の案内で糸紡ぎ水車跡へ行った帰りである。花の名は「なんばんぎせる」万葉集には、「思い草」という別名でうたわれている。

道の辺の尾花がしたの思い草

今さらになど何か思わぬ（作者不詳）

シ

オ

アメリカの子どもの場合は、二か月半ほどの夏休みをほとんど「サマーキャンプ」で過ごす中日の家庭欄にのっていた。スポーツや絵画、演劇などが主で、いわゆる「お勉強」のたぐいはほとんどない。

そのすぐ横に、三歳の子を特訓しようという日本の主婦の作文が並んで載せられていた。好対照。

ア

涼風とは言い難い生ぬるい風が教室に入ってくる。会う度に日焼けの増す子供達。休み中の出来事を次々に話しかける白い歯の目立つ口元。「先生。おみやげだよ。」

K男が家族旅行で買った置き物をくれた。M子の顔が見えない病気がしらと不安になる。夏休み学級出校日の一コマである。

ス